

平成28年12月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年12月の山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）は、売上高、収益状況、景況感、全ての項目で改善となった。

ただし、全業種D I 値の前月比で比較すると売上高は不変、収益状況は4ポイント改善、景況感は4ポイント悪化した。

年末年始に向け一般機械や電子機械製造業、建設業を中心に受注が増加したことに加え、青果物や食肉、美容院等の需要が高まっているとの報告が寄せられた。

一方、夏頃まで好調だった訪日外国人旅行客の減少やガソリン・軽油など燃料価格の上昇、原材料・資材等の値上がり等が企業のコスト負担を増加させ景況悪化を懸念する報告も見られた。

国内展開が中心の中小・小規模企業にとっては、技能者をはじめとする人手不足、ガソリンや灯油、野菜等の価格高騰による消費者マインドの低下、業者間の価格競争等、利益を押し下げる要因が多い。

そこで、当会が独自に2017年の業界における景気動向について調査を行ったところ、先行きの不透明感が強く1月に就任する米国の次期大統領の動向を多くの業界で注視していることが伺えた。世界各国が経済面で深く結びついている近年、海外からのマイナス要因に立ち向かうため、企業経営を将来にわたり安定的に続けるため人材育成や事業承継、労働条件等を改善するための取り組み等、経営基盤を強化するための支援、施策が強く求められている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は不振。おせち食材も前月の反動により減少したが、ホテル・レストラン向けの生食材が伸長、全体の売上は前年同月比98%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の量販店向けや輸出が不振、OEMの焼き菓子は好調だったが、全体の売上は前年同月比92%と低調。
繊維・同製品（織物）	ネクタイ地の春物受注が始まりホテル関連のインテリア関係は順調に推移しているが、裏地については種類により受注状況に格差が生じている。
繊維・同製品（アパレル）	業界全体としては厳しい状況。
木材・木製品製造	厚板合板が大手プレカット工場でも品薄になり建築現場での建方遅延が出る可能性が高まっている。
印 刷	円安による材料高が懸念される。
窯業・土石（砂利）	骨材受給量や価格の低迷が続いている。

窯業・土石（山採石）	9月より3ヶ月連続で製品出荷量は減少傾向にあるが、上半期の契約率は昨年度よりも高かったため製品出荷量の前年同月比は増加した。しかし、燃油・諸資材の高騰で利益率は下降気味であり、設備投資が出来ない状況は続いている。
鉄鋼・金属	デバイス関連は、韓国・中国向けが上向きになってきた。
一般機器	業界全体は若干上向き傾向にあるが、円安による原材料・燃料価格の上昇や海外経済の低迷等により厳しい状況は続く見込み。
電気機器	年末の需要拡大があり、前年同様仕事量が増加した。

● 非製造業

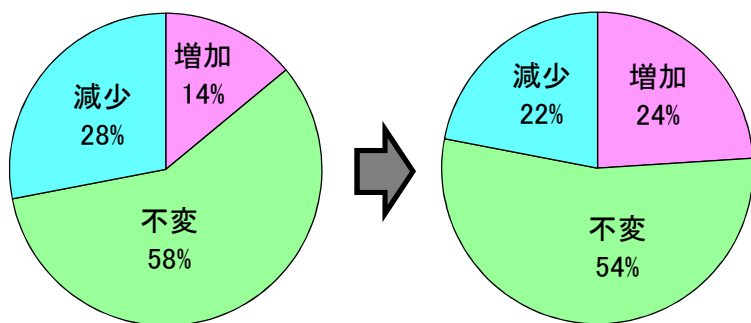
小売（青果）	年末年始により荷動きが活発となり、価格面は高値で推移したため売上高も前年同月比124.5%と伸長したが、仕入価格も上昇しており収益面は減少に転じた。
小売（電機製品）	地域店、量販店共に売上が減少。地域店は太陽光等の低迷がマイナス要因。
小売（石油）	昨年11月に開催されたOPECの決議により8年ぶりに減産されたことに加え、円安により原油調達コストが高騰している。しかし、販売価格への転嫁が難しくマージン不足が深刻化している。
商店街	12月はじめに商店街ガイドブックを大月市内全戸に配布したところ、好評を得たが年末商戦には結びつかなかった。
宿泊業	中国人観光客は失速気味だが、外国人観光客の全体数は前年並み。
美容業	年末に向け固定客を中心に入店客数が増加した。
廃棄物処理（産廃系）	年末は、廃棄物の量が増加する時期だが、全体的に廃棄物の量が減少傾向にある。
警備業	警備員の派遣依頼が増加しているため業況は好転しているが、警備員不足が深刻化している。
建設業（総合）	12月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は7%、請負金額は38%増加。12月までの累計では、件数が3%、請負金額が8%増加した。
建設業（型枠）	12月は例年並みに仕事量が確保できた。しかし、大手ゼネコンが最高の利益を出した平成28年は、下請けの専門工事業者にとっては厳しい1年であった。
建設業（鉄構）	県内は公共工事が少なく民間頼りの状況が続いている。
設備工事（電気工事）	年末より電線等の材料価格が値上傾向にあり収益、資金繰りが厳しい状況になると思われる。
設備工事（管設備）	配管工等の職人の高齢化が進んでいるため、若年技術者の人材確保、育成が急務である。
運輸（タクシー）	企業の忘年会等が減少しているため、タクシー需要は減少している。
運輸（バス）	インバウンド関連の仕事量が激減し、春まで見通しがつかない状況にある。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/12	2016/11	2016/12	2015/12	2016/11	2016/12	2015/12	2016/11	2016/12
売 上 高	-20	5	10	-10	0	-3	-14	2	2
収 益 状 況	-25	5	10	3	-10	-7	-8	-4	0
景 況 感	-30	-10	-5	-3	-7	-17	-14	-8	-12

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

売 上 高 (前年同月比)

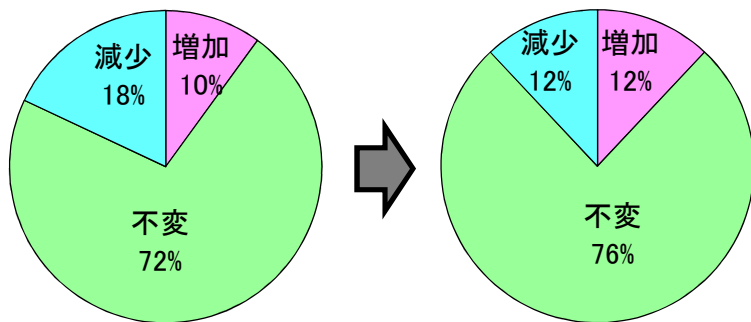


平成27年12月

平成28年12月

- ・ D I 値 + 2 (前年同月比+16)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 +10(前年同月比+30)
 - 非製造業 ▲ 3(前年同月比+ 7)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント改善
 - 非製造業 3ポイント悪化

収 益 状 況 (前年同月比)

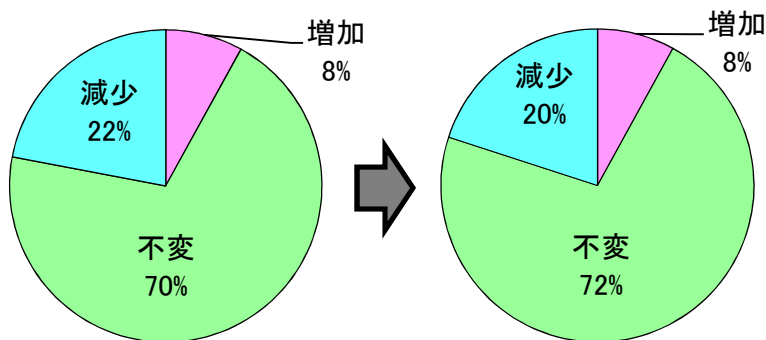


平成27年12月

平成28年12月

- ・ D I 値 ± 0 (前年同月比+ 8)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 +10(前年同月比+35)
 - 非製造業 ▲ 7(前年同月比▲10)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント改善
 - 非製造業 3ポイント改善

景 況 感 (前年同月比)



平成27年12月

平成28年12月

- ・ D I 値 ▲ 12 (前年同月比+ 2)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲ 5(前年同月比+25)
 - 非製造業 ▲ 17(前年同月比▲14)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント改善
 - 非製造業 10ポイント悪化